

1 授業評価と授業分析

(1) 授業評価とその目的

- ・授業評価とは
 - －授業をふり返り、その分析をとおして、目標設定や教材、教授学習活動、指導過程などが適切なものであったかについて価値判断を行うこと
- ・授業評価の目的
 - －授業評価の結果に基づき、授業改善を図ることで生徒のより質の高い学びを促す
 - －授業評価の過程をとおして、教師が、授業設計、教材研究、授業実践における自らの力量を高め、教師としての成長を図る

(2) 授業評価の方法としての授業分析

- ・授業評価の方法
 - －生徒を対象にした学習評価の結果に基づき授業評価を行う
 - －授業分析の結果に基づき授業評価を行う
- ・授業分析とは
 - －授業の記録にもとづき、授業における一つひとつの事実の持つ意味を明らかにすること（二杉, 2002）
 - －授業を細かく分けて、その授業の特徴や他の何らかの知見を明らかにしようとする営み（藤川, 2002）

2 授業分析の方法

(1) データ収集

- ・授業者のデータ
 - －授業日誌、授業記録（自由記述、チェックリスト）、ティーチング・ポートフォリオ
- ・生徒からのデータ
 - －アンケート、評定尺度、感想
- ・観察者のデータ
 - －観察記録（メモ、自由記述、チェックリスト、評定尺度）
- ・機器によるデータ
 - －授業の録音、録画

(2) 授業分析の方法：システム観察法

- ・カテゴリーシステム
 - －授業中の教授・学習行動をカテゴリーに分類し、その分布により授業の特徴を明らかにする
例) Flanders, N.A. の授業相互作用分析, Wragg, E.C. の外国語の授業での相互分析
- ・サインシステム
 - －授業がどのような要素から成り立っているのかを多次元的に、探索的に明らかにする
例) Communicative Orientation of Language Teaching (COLT)
- ・評定尺度システム
 - －授業がどの程度その目的を実現しているかを項目ごとに重みづけされた尺度を用いて判定する

(3) 授業分析の方法：授業リフレクション (reflective teaching)

- ・授業リフレクションとは
 - －教師が自分の授業について得られたデータ・情報をもとに、授業に対する自分の考え方や態度、また、自分の授業実践を吟味し、教授行為を批判的に省察すること (Richards and Lockhart, 1996)
 - －教師は教授経験の性質と意味を焦点化してふり返ることにより経験から学ぶことができる (Richards and Farrell, 2005)
- ・授業リフレクションにおけるデータ収集とデータ分析
 - －データ収集：授業日誌、授業記録、アンケート、録音・録画、ティーチング・ポートフォリオ
 - －データ分析：自己省察 (self-monitoring)、相互授業観察 (peer observation)
- ・授業リフレクションにおける省察 (reflection) の観点
 - －教師の信念、学習者の信念、教師の役割、授業設計・構成、学習活動・教材、目標言語使用、学習評価など

主要参考文献

- 高梨庸雄・高橋正夫 (2007) 「新・英語教育学概論」金星堂
二杉孝司・藤川大祐・上條晴夫 (編著) (2002). 「授業分析の基礎技術」学事出版
Richards, J. & Farrell, T. (2005). *Professional Development for Language Teachers: Strategies for Teacher Learning*. Cambridge: CUP.
Richards, J. & Lockhart, C. (1996). *Reflective Teaching in Second Language Classrooms*. Cambridge: CUP.